



角野幸博

Yukihiko Kadono

関西学院大学 総合政策学部都市政策学科 教授

URL:<http://kg-sps.jp/blogs/kadono/author/kadono/>
Email : kadono@kwansei.ac.jp
〒659-0031 兵庫県三田市学園2-1
TEL/FAX 079-565-7813

■活動のビジョン

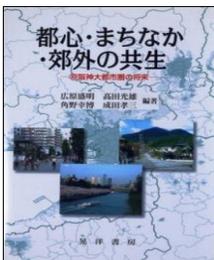
総合政策学部という複合領域に身を置いて都市デザインやまちづくりの教育・研究を進めています。「かたち」の文化的意味、住民の間わり方、維持管理の仕組みにまで踏み込んだデザインのあり方を探ります。フィールドワークを重視して、何度も現場へ足を運び、現場の声を五感で聞くことを学生にも自分自身にも言い聞かせています。

■自身が考える都市デザインの課題

変わらないもの(変えてはいけないもの)と、移りゆくもの(新しく取り入れるべきもの)とのバランスをどう取るか、「かたち」だけでなく、人の行動や組織までを含めた、都市デザインの不易と流行を常に意識しています。都心や盛り場など賑わいのデザインに昔から関心を持っていますが、人口が減少する中での上質の賑わいをどう提案できるか、都会と田舎の双方から考えたいと思っています。

■自身が関わった活動・作品・現場の概要

- ①郊外住宅地の成立・衰退・再生に関する一連の著作および調査研究と、これに関する審議会委員や講演等。
- 『郊外の20世紀』学芸出版社、
- 『近代日本の郊外住宅地』鹿島出版会/共編
- 『都心まちなか郊外の共生』晃洋書房/共編
- 『駅から始まるコンパクトシティ形成促進方策に関する研究』都市住宅学会関西支部
- ・まちなみ塾講師(住宅生産振興財団)



②都心のエリアマネジメントや都市再生に関する行政、経済団体などの委員会・研究会・審議会への参加。



- ・都心戦略検討会副座長(都市活力研究所)
- ・大梅田グランドデザイン研究会(関経連)
- ・都市計画審議会委員(大阪、西宮、篠山他)
- ・まちなか再生支援アドバイザーボード委員(地域総合整備財団)
- ・『都市のリデザイン』学芸出版、共著

③地方都市での景観行政支援活動。大都市近郊地帯や中山間地域における景観整備に関するアドバイス、計画策定、審議会委員等。

- ・みどり条例に基づく景観形成支援(兵庫県)
- ・景観審議会委員(兵庫県、三田市等)
- ・景観づくりに関する講演(大阪府、淡路島、三田他)
- ④兵庫県丹波市柏原町内の空家を活用したサテライト研究室の運営と学生指導。・関学柏原スタジオ(兵庫県丹波市柏原町) 県・市・地元TMOの支援を受けて、ここを拠点にまちづくりのフィールドワークを継続。



■主な経歴

- 1978年 京都大学工学部建築学科卒業
- 1980年 同大学院工学研究科修士課程修了
- 1984年 大阪大学大学院博士後期課程修了
- 1984年 (財)21世紀ひょうご創造協会研究員、福井工業大学非常勤講師
- 1987年 株電通入社 大阪支社勤務
- 1992年 武庫川女子大学助教授を経て教授
- 2006年 関西学院大学総合政策学部教授

■所属・資格等

- 関西学院大学総合政策学部教授
- 日本建築学会正会員
- 日本都市計画学会正会員
- 都市住宅学会正会員(理事、関西支部長)
- 社叢学会正会員
- 工学博士
- 一級建築士

⑤阪神淡路大震災からの復興に関する一連の活動

- ・『災害対策全書③復旧復興編』ぎょうせい
- ・ひょうごフェニックスプラン策定委員会委員
- ・震災復興10年検証委員会委員
- ・『街の復興カルテ(三宮北部地区)』
- ・『政策とデザインの融合を目指して』関学出版会、共著

⑥地方小都市の公立ミュージアムの運営支援とこれを活用したまちづくり活動支援。



- ・あさご芸術の森美術館(兵庫県朝来市)および周辺エリアの整備計画、運営に開館当初より関わり続けている。
- ・『ミュージアム・マネージメント』東京堂出版、共著

⑦生活美学の視点からの、ホテル、都市景観、もてなし空間などに関する一連の研究と著作(武庫川女子大学勤務時代)。

- ・『日用品の20世紀』トメス出版、共著
- ・『阪神間モダニズム』淡交社、共著
- ・『テキスト生活美学』光生館、共著
- ・『大村しげ京都町家ぐらし』河出書房新社、共著
- ・『大阪の表現力』PARCO出版、共著



⑧住宅地開発の事業コンペ、テーマパーク、商業施設開発などに関する一連の企画提案作業や官民のミュージアム施設に関する情報収集活動他(広告代理店勤務時代)。

■おすすめ景観

メキシコの小都市チョルーラの市街地。強い日差しと乾燥した空気は、コントラストの強い、強烈な街並み景観を生む。そこかしこに額縁で切り取られた色彩のコンポジションが展示物のようにまちなかに散らばる。

こんな景観を体験することによって、水蒸気に満ちた日本の景観の魅力を再確認もできる。

